

説教題：「OICの信仰声明、第9項: 私たちはキリストの体である、教会を信じています。」

鍵となる聖句:

コリント人への手紙 第一 12:12-13 - 「ですから、ちょうど、からだの一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はたとい多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。<sup>13</sup>なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。」

みなさんおはようございます。今日は、大阪インターナショナルチャーチの信仰告白に関する説教シリーズを続けています。私たちの信仰告白には10の項目があり、今日は第9項を見ていきます。来月、第10項を見て、このシリーズは終了します。

本日の説教題は、「OIC信仰声明、第9項：私たちはキリストの体である、教会を信じています」です。このシリーズの私の説教のタイトルはそれぞれ、私たちが見ている項目の短縮版であるため、今日は、ご覧のとおり、「キリストの体」と呼ばれる教会の教義を見ていきます。

私たちの信仰声明である第9項を読みましょう：

真の教会とは、イエスキリストの救いにあずかり、聖霊により新しく生まれ変わり、イエスキリストを頭とするキリストの体につながるすべての者たちの集まりである、と信じる。 コリントの信徒への手紙一 12:12-13。

真の教会。

真の教会は、イエス・キリストを信じる救いの信仰を持つ人々から成り立っています。

聖霊によって新生した人々。新生=新しい命を与えられた。

これらの人々は一つの体にされています。

これは「キリストのからだ」と呼ばれています。

イエス・キリストは、この体の頭です。

これらの点は、今日の説教の概要を私に示唆しています。

1. まことの教会。
2. イエス・キリストへの救いの信仰。
3. 聖霊による新生。
4. キリストの体における多様性と一致。

5.イエス・キリストは教会の頭ですある。

それでは、これらの各ポイントをさらに詳しく見てみましょう。

パート1:まことの教会。

まず、「教会」という言葉を見てみましょう。これはギリシャ語のエクレスシア(ἐκκλησία)です。この言葉は基本的に「集められた集会」を意味します。より具体的には、音節 ek は「から」または「に」を意味し、ギリシャ語の作品 kaléō は「呼び出す」を意味します。これらは集まるように召された人々です。元のギリシャ語の使用法では、政治的、経済的、または宗教的など、何らかの理由で集まった集会に言及されるでしょう。セプトゥアギンタ(七十人訳聖書)と呼ばれる旧約聖書のギリシャ語訳では、この単語 ekklēsia はイスラエル人の会衆を指します。新約聖書では、この言葉はキリスト教の集会を指すためによく使用されますが、使徒の働き 19 章では、他の理由で集まった人々の集会に 3 回使用されています。

新約聖書の用法では、ekklēsia という言葉は基本的に「呼び出された」人々を指します...つまり、世から召し出され、神の御子イエス・キリストに従うように召されました。

使徒パウロがコリントの教会で演説しているコリント人への手紙 第一 1:2 を見てみましょう。- 「コリントにある神の教会へ。すなわち、私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ。主は私たちの主であるとともに、そのすべての人々の主です。」

キリストに信仰を置いたコリントの人々は、パウロによって「キリスト・イエスにあって聖別され」、「聖徒として召された」と言われています。先週、「聖められる」という言葉は「区別される」という意味だとお話ししました。第一に、罪と世界とその不敬虔な態度から区別されること。第二に、それは神の方に区別されたことを意味します。パウロがこれらのクリスチャンを「聖徒」と呼んでいることに注目してください。それは「分別された人々」を意味します - この世から離れて神に属する人々。すべてのクリスチャンは聖徒です - その言葉は特別な少数のクリスチャンだけを指すことに限定されるべきではありません。すべてのクリスチャンは聖化された生活を送るように召されています。

それが教会であり、イエス・キリストに聖別された人々の集まった集まりです。

「まことの教会」とはどういう意味でしょうか?明らかに、これは偽りとは対照的な何かを意味するに違いありません。この「まことの教会」という言葉を見ると、二つ

のことが思い浮かびます。第一は、プロテスタント改革派が15世紀に見たものです：彼らは制度化された教会の腐敗を見て、まことの教会は何か他のものでなければならぬと信じていました。実際、15世紀以前でさえ、中世後期の制度化された教会に多くの問題を見て、改革を求めた教会員が何人かいました。教会には腐敗した慣習といくつかの疑わしい教義がありました。今日はこれらの問題については説明しませんが、マルティン・ルターと15世紀の他の宗教改革者たちが制度化された教会を批判したとき、救いの道は神の恵みのみによるものであり、信仰のみによるものであり、いかなる種類の宗教的儀式や善行にも基づいていないという重要な点を強調しました。当時のローマカトリック教会と言ったすべての人が本当にクリスチャンだったわけではありません。まことの教会は、キリストに信仰を置き、自分の行いではなく、神の恵みに頼った人々で構成されています。

この「まことの教会」という言葉を見ると、二つの思いが浮かぶとお話ししました。二番目の考えは、イエスのたとえ話の1つから来ており、共同体内に自分たちをクリスチャンと呼ぶ2種類の人々がいるという事実を強調しています。

マタイの福音書13:24-30を見てみましょう。これは、麦と毒麦のたとえ、または小麦と雑草のたとえ話と呼ばれます(「毒麦」は「雑草」を意味します)。ここにあります－「イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は、こういう人にたとえることができます。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。<sup>25</sup>ところが、人々の眠っている間に、彼の敵が来て麦の中に毒麦を蒔いて行った。<sup>26</sup>麦が芽生え、やがて実ったとき、毒麦も現われた。<sup>27</sup>それで、その家の主人のしもべたちが来て言った。『ご主人。畑には良い麦を蒔かれたのではありませんか。どうして毒麦が出たのでしょうか。』<sup>28</sup>主人は言った。『敵のやったことです。』すると、しもべたちは言った。『では、私たちが行ってそれを抜き集めましょうか。』<sup>29</sup>だが、主人は言った。『いやいや。毒麦を抜き集めるうちに、麦もいっしょに抜き取るかもしれない。<sup>30</sup>だから、収穫まで、両方とも育つままにしておきなさい。収穫の時期になったら、私は刈る人たちに、まず、毒麦を集め、焼くために束にしなさい。麦のほうは、集めて私の倉に納めなさい、と言いましょ。』」

イエスが言われているのは、イエス・キリストだと言う、この地上の神の共同体の中には、良い種と悪い種の両方、小麦と雑草の両方、キリストのまことの弟子と偽りの弟子の両方がいるということです。共同体には、まことの弟子ではない人々が常にいます。彼らは活動に参加し、クリスチャンらしき言葉で話すかもしれませんが、彼らの心は正しくないか、福音を正しく理解していません。それらは時々識別するのが難しいかもしれませんが。イエスは、私たちが偽りの弟子たちを根こそぎにすることに熱心すぎると、まことの弟子を傷つける可能性があるため、雑草を根こそぎにしようとするべきではないと言われました。ですから、私がここから説教壇で、または誰かとあるいは少数の人々との会話の中で福音のメッセージを分かち合うと

き、私はまことの教義と実践を説明することに集中します。そのようにして、私はクリスチャンにイエスとより近い歩みを呼びかけ、不信者を彼らの人生と信仰を調べるために呼び掛けたいと思います。キリストと一致し、キリストに信仰を置くように励まします。

もちろん、教会に間違った信仰や不道德な慣習を支持する人々がいるとき、私たちはそれらに立ち向かう必要があります。コリント人への手紙 第一 5章では、パウロが不道德に生きていると公言しているクリスチャンを容認したことで教会を叱責していることがわかります。使徒の働き 8:9-24 で、使徒ペテロが魔術師サイモン・メイガスを厳しく扱っているところにそれがわかります。そうです、時々私たちはクリスチャン共同体で深刻な罪に直面しなければなりません。しかし、イエスのたとえ話が言うように、残念ながら、小麦の間には常に雑草があります。

パート2：イエス・キリストを信じる信仰を救うことに移りましょう。

私たちの信仰声明は、「まことの教会は、イエス・キリストへの救いの信仰を持っているすべての人々から成り立っています」と述べています。イエス・キリストを信じる救いの信仰。救いは、信仰による神の恵みの働きです。私たちが行うどんな行為によっても、あなたはあなたの救いを得ることができません。

エペソ人への手紙 2:8-9 - 「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。<sup>9</sup>行ないによるものではありません。だれも誇ることのないためです。」

神の恵みによって私たちは救われます。救いは神によって始められたものであり、私たちはそれにふさわしいことを何もしていません。私たちは救いを得るために何もしていません。救いは行いの結果としては起こりません。私たちが救われるのは神の恵みによるものであり、信仰によってこの賜物を受け取るのです。

聖書の中で最も有名な聖句 ... ヨハネの福音書 3:16 - 「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

後に、イエスはこう言われました ... ヨハネの福音書 5:24 - 「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。」

ヨハネの福音書 1:12-13 - 「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。<sup>13</sup> この人々は、血によっ

てではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」

神は救いのプログラムを開始した方であり、私たちではありません。神は私たちがキリストを受け入れ、彼を信じることを望んでおられます。12節をも一度：しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

2か月前の4月23日、私は信仰声明の第6項について説教をしたときに、このトピックを詳細に取り上げました。もっと知りたい場合は、その説教をご覧ください。第6項は次のとおりです。

イエス・キリストの流された御血とその復活だけが、信じる者すべての義と救いの原点となり、信仰によりイエス・キリストを受け入れた者だけが、聖霊によって生まれ変わり、神の子どもとなりうる、と信じる。

今日のメッセージのパート3に移りましょう：聖霊による新生。

新生。新しい誕生。私たちは神の聖霊によって新たに生まれなければなりません。

それが信仰声明の第4項と第5項のテーマでした。第5項を読みましょう：

人間は神のかたちに創造されたが、罪に陥ったので失われ、聖霊による新生によってのみ救いと霊的いのちを得ることができると私たちは信じています。

テトスへの手紙3:4-5 - しかし、私たちの救い主なる神のいつくしみと人への愛とが現われたとき、<sup>5</sup>神は、私たちが行なった義のわざによってではなく、ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。

救いは、私たちの行いで成し遂げられません。むしろ神の憐みです。そしてこの聖句の中にあります。「新生と更新」という言葉があります。新生 - もう一度新しく生まれ変わります。もう一度生き返らせるために。ここでは、神は「聖霊による再生と更新の洗いをもって」私たちを救ってくださいと書かれています。この新生と更新は、洗いとして説明されています。これは、罪を洗い流すこと、罪を洗い流すこと、そして聖められることを指します。私たちは聖められ、もう一度生かされます。そして、これは聖霊によって行われます。

これは旧約聖書で約束されていました。2か月前、私はエゼキエル36:25-27で見つけられた約束を皆さんと分かち合いました。その言葉は、元々、不従順なイスラエルに語られました。しかし、メシアの到来後、私達異邦人は、イエスに従うための招待の中に含まれました。エゼキエルによって記されたその約束の箇所、神がこの

ように言われている所を読みましょう - 「わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよめられる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、<sup>26</sup> あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。<sup>27</sup> わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行なわせる。」

これが新生です：私たちは自分の罪は聖められ、私たちの古い頑な心は新しい心にとって替えられています。そして聖霊が心の内に住んでくださっています。

パート4：キリストの体における多様性と一致に移りましょう。

多様性と一致。そうです、私たちは教会に多様性を見えています。人には多くの種類があります。単一文化の教会でさえ、人々の間で異なる性格を見るでしょう。これは、多文化の環境ではさらに真実です。しかし、私たちの背景や性格が何であれ、私たちクリスチャンは一緒になって神の下で一つの民とされます。人種や社会的地位、性別の区別は関係ありません。キリスト教時代の初期の何世紀にもわたって、異教徒社会はキリスト教徒に驚嘆しました。教会では、社会的地位の異なる人々と男女の人々が混ざり合い、交流していました。彼らは一緒に聖餐に参加し、アガペーの食事のために集まりました。この平等主義的行動の表示は、その社会において革命的でした。

ガラテヤ人への手紙 3:27-29 - 「バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。<sup>28</sup> ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。<sup>29</sup> もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。」

私たちクリスチャンは「キリスト・イエスにあって一つです」。私たちは一つですが、それでも私たちは一人一人異なっています。

コリント人への手紙 第一 10:17 - 「パンは一つですから、私たちは、多数であっても、一つのからだです。それは、みなの方がともに一つのパンを食べるからです。」私たちはたくさんいます。しかし、私たちは一つの体です。この節では、先ほど述べた聖餐への言及が見られます。会衆の各メンバーがそのパンとその杯を食するとき、私たちは皆平等であることがわかります：私たちはそれぞれ、人種や社会的地位、性別の区別なしに、同じように神に近づきます...私たち一人一人は恵みによって救われた罪人です...そして聖餐式では、私たちはそれぞれ同じ量のパンとワインを受け取ります...他の誰よりも優れている人は誰もいません。

ローマ人への手紙 12:3-5 – 「私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。<sup>4</sup>一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、<sup>5</sup>大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。」

私たちの人体を見てください – 私たちは多くの部分を持っています：手、腕、脚、足、頭、口、目、腹部。これらはそれぞれ異なる機能を持っていますが、すべて同じ本体の一部です。体の必要な部分。同じように、教会は体であり、私たち一人一人が異なる賜物と能力を持っていますが、それぞれが全身の機能に必要です。

その考えは、私たちの信仰声明の第9項で引用されている一つの聖書の一節に私を導きます。コリント人への手紙 第一 12章 12-13節です。 – 「ですから、ちょうど、からだ一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はたとい多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。<sup>13</sup>なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。」

教会はキリストの体です。わたしたちは皆、バプテスマを受けてこの体に入っています。私たち一人一人は、聖霊の賜物、神の唯一の御霊を受けています。これは、私たちをキリストの体の中で一致させるように設計されています。私たち一人一人が、愛と赦しと奉仕という重要なキリスト教の価値観を常に意識するなら、教会員間の一致がさらに見られると私は信じています。

そして、さらに、もっとあります。聖霊はすべてのクリスチャンに、一つあるいはそれ以上の霊的な賜物を与えます。これらの賜物は、キリストのより広い体に仕えるために私たちに与えられます。

コリント人への手紙 第一 12:4-7 – 「さて、御霊の賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。<sup>5</sup>奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。<sup>6</sup>働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。<sup>7</sup>しかし、みな益となるために、おのおのに御霊の現われが与えられているのです。」

教会員に分配される賜物やミニストリーにはさまざまなものがありますが、これらの賜物を分配するのは同じ神、同じ聖霊です。そして、目的は何ですか?ここ7節には、御霊の現れはみな益となるために私たち一人一人に与えられていると書かれ

ています。賜物は、あなた自身のためだけでなく、キリストの体全体のために使われるべきです。

8 節から 10 節、27 節から 28 節には、これらの霊的な賜物の幾つかがリストされています。また、ローマ人への手紙 12 章 6-8 節。今日は読みませんが、調べることをお勧めします。

コリント人への手紙 第一 12:11 を読み続けましょう- 「しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。」

賜物は、みこころのままに、夫々のクリスチャンに分け与えられます。

私はすでに 12 節と 13 節を読みました。私たちはたくさんいて、異なる賜物を持っていますが、私たちは一つの体です。

14 - 18 節を読みましょう - 「確かに、からだはただ一つの器官ではなく、多くの器官から成っています。<sup>15</sup>たとい、足が、「私は手ではないから、からだに属さない。」と言ったところで、そんなことでからだに属さなくなるわけではありません。<sup>16</sup>たとい、耳が、「私は目ではないから、からだに属さない。」と言ったところで、そんなことでからだに属さなくなるわけではありません。<sup>17</sup>もし、からだ全体が目であったら、どこで聞くのでしょうか。もし、からだ全体が聞くところであったら、どこでかぐのでしょうか。<sup>18</sup>しかしこのとおり、神はみこころに従って、からだの中にそれぞれの器官を備えてくださったのです。」

体のあらゆる部分が重要です。体のすべての部分が適切に機能しているなら、体は健康になります。あなたの役割が取るに足らないものだとは思わないでください。誰もが重要です。

21-24 節 - 「そこで、目が手に向かって、「私はあなたを必要としない。」と言うことはできないし、頭が足に向かって、「私はあなたを必要としない。」と言うこともできません。<sup>22</sup>それどころか、からだの中で比較的弱いと見られる器官が、かえってなくてはならないものなのです。<sup>23</sup>また、私たちは、からだの中で比較的尊くないとみなす器官を、ことさらに尊びます。こうして、私たちの見ばえのしない器官は、ことさらに良いかっこうになりますが、<sup>24</sup>かっこうの良い器官にはその必要がありません。しかし神は、劣ったところをことさらに尊んで、からだをこのように調和させてくださったのです。」

体の弱い、またはあまり名誉がないように見える部分は、体の適切な働きにとって依然として重要です。キリストのからだのすべてのメンバーが自分の役割を果たし、賜物を行行使する必要があります。この団体、大阪インターナショナルチャーチでそ



それぞれの役割を果たしてくださっている皆さんに感謝します。案内係、日曜学校の教師、フェローシップルームを設置するフェローシップチーム、片付けクルー、そして早朝にはセットアップチーム、礼拝のための賛美の練習、サウンドシステムチーム、インターネット技術者、そしてこの現代世界での彼らの重要な仕事があります。事務所のスタッフと教会役員と財務委員がいます。そして、私はここで行われているのを見ることのできる仕事の半分だけしか言及していません。OICでのご奉仕に感謝します。

ああ、私は体の他の1つの部分、つまり口については言及していません。毎週日曜日、私たちは神の言葉からのメッセージを伝えるために説教壇に説教者がいます。そして、礼拝で会衆を率いる礼拝チームのリーダーがいます。口はこの体の重要で目に見える部分です。しかし、メンバーの手足があなたの役割を果たさなければ、私たちは効果的に仕事をすることはできません。皆さんのことを主に感謝します。

キリストの体と主が教会に与えてくださった賜物について言及している別の聖句を読んでみましょう。

エペソ人への手紙 4:4-7 – 「からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。<sup>5</sup>主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。<sup>6</sup>すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののおちにおられる、すべてのものの父なる神は一つです。<sup>7</sup>しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。」

これは一致を強調する一節です。一つの体があります – すべての真のクリスチャンは、この一つの体、クリスチャン教会のメンバーです。聖霊は一人、主イエス・キリストは一人、父なる神は一人であり、それぞれが一つの神、三位一体に別個の人です。わたしたちが世にもたらす福音のメッセージという真の信仰が一つあります。この体に入ることは、私たちの古い生活から離れてクリスチャンの弟子の身分に喜んで応じることを意味するバプテスマによって象徴されています。

11-13節を読みましょう – 「こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。<sup>12</sup>それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、<sup>13</sup>ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。」

キリストはある目的のために教会の使徒と牧師と教師を与えました。12節：聖徒たちを備えるため。私たちは以前にその言葉を見ました – 聖徒：皆さん、この世から分かれたれ、今では教会の一部になっています。説教壇の牧師と教師、日曜学校、小グループの聖書研究があなたに神の言葉からの教訓を教えるのはあなたのためで

す... あなたがその奉仕をするように備えられる目的です。牧師や教会役員が自分でミニストリーを行うのではありません。ミニストリーの仕事はあなたがすることです。ミニストリーとは、先ほどお話ししたさまざまな務めであり、皆さん一人一人に霊的な賜物が与えられています。

そして、クリスチャン共同体の目的は 13 節で言及されています。それは私たちが信仰の一致を達成できるようにするためです...そして神の子の知識...そして大人になる。一致。。。神とその御子イエス・キリストについての知識 .....そして霊的に大人になる。

この件についてはもっと言えますが、次のメッセージまで待ちます。来月は、信仰声明の最後の項目についてお話ししますが、これも教会についてです。それは教義と教会員のライフスタイルについてです。それで、皆さんは、このことについて来月もっと聞くことになります。

それでは、本日のメッセージの最後の部分に移りたいと思います。  
パート 5：イエス・キリストは教会の頭です。

エペソ人への手紙 4:15-16 – 「むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。<sup>16</sup>キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」

体の各部分はその役割を果たすにつれて、それは構築されます。愛はこのプロセスの一部であることを忘れないでください。目標は大人に成長することです。そして、キリストはその体の頭です。

コロサイ人への手紙 1:18 – 「また、御子はそのからだである教会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、ご自身がすべてのことにおいて、第一のものとなられたのです。」

キリストはそのからだである教会の頭です。彼はすべてにおいて第一のものとなります。

そして、大宣教命令をもう一度見てみましょう。マタイの福音書 28:18-20 – 「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。<sup>19</sup>それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、<sup>20</sup>ま

た、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」  
天でも地でも、すべての権威がイエス・キリストに与えられています。彼は私たちの主であり、従うべきです。私たちはこの福音のメッセージをすべての国に伝え、弟子を作り、キリストが命じられたすべてのことを守るように教えなければなりません。そして、彼はこの現在の時代、教会の時代を通して私たちと一緒にいると約束しました。働き始めて、教会、キリストの体を築くのを手伝いましょう。

私は私のメッセージの終わりに来ました。しかし、締めくくる前に、私のお気に入りの賛美歌の1つをあなたと共有したいと思います...おそらく私の一番好きな賛美歌。この賛美歌には、OIC 信仰声明に関するシリーズ、特に今日の教会に関する説教で概説したテーマの多くが含まれています。今日、礼拝チームにこの賛美歌を導いてくれるように頼みました。その前に、賛美歌の歌詞の幾つかを強調したいと思います。

この歌は「キリスト・イエスをもととして」と題されています。最初の節は次のとおりです。（内容は同じですが、聖歌 201 の歌詞とは異なります。）

教会の唯一のもとい  
イエス・キリストは、教会の主です。  
教会は、キリストの新しい創造物です  
水とみことばによって。

イエス・キリストは教会の土台です。そして、教会の各メンバーは新しく創造され、御霊によって新たに生まれ、新しい命の象徴として水でバプテスマを受け、神のみことばで教えられています。

賛美歌を続けましょう:

天から来て教会を求めた  
彼の聖なる花嫁になるために。  
キリスト御自身の血で、キリストは、教会を買いました、  
そして教会のいのちのためにキリストは死にました。

私たちの信仰声明の以前のメッセージで見たように、キリストは天から降りてきて受肉した三位一体の第二の人です – キリストは私たちの人間の肉を贖うために、受肉されました。キリストは私たちの罪の犠牲になるために地上に来ました – キリストは私たちのために血を流しました、彼は私たちのために死にました。

続けましょう:

すべての国から選び出し、  
しかし、全地にたった一つ。  
教会の救いの宣言、  
一つの主、一つの信仰、一つの生まれ。

どの国からもキリストに従う者がいます。それでも、この多様性の中で、私たちは共通の主への共通の信仰によって一致しています。皆さんの多くは、私が若い頃に1年間世界中を旅したことを知っているでしょう。地球の遠く離れた多くの場所で信仰にある兄弟姉妹を見つけることができたのはとてもうれしかったです。そして私はあなたに話すことができるいくつかの物語があります(しかし今は、出来ませんが)。

その賛美歌の3番目の節は労苦と苦難について語っていますが、結局教会は勝利と休息を見つけるでしょう。4番目の節は三位一体の神との結合について語っており、私たちは永遠に彼と一緒に住むでしょう。

本日のメッセージは以上です。私たちの主イエス・キリストを思い出し、キリストの体の中で私たちの役割を果たしましょう。神はあなた方全員を祝福します。